

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1661号 2002年11月18日(月)

## 《 there will be a war 》

今週のレポートの主なポイントは次の通りです。

1. イラクの無条件での国連監視検証査察委員会 (UNMOVIC、以後「査察委員会」) 受け入れによって、アメリカ主導によるイラク攻撃は先延ばしになったように見えるが、アメリカが満足する形でイラクが国連査察を完了する見通しは小さいし、アメリカもそれを望んでいない
2. 従って、査察受け入れでの重大な瑕疵や妨害を理由に、かなりの確率でアメリカによるイラクのフセイン体制への攻撃は開始されるだろう。その場合、アメリカの短期的な勝利は確実である
3. 問題はその後イラクに安定政権をどう作り上げるかである。既に北部のクルド族の一部勢力は、アメリカ軍の侵攻に歩調を合わせて首都バグダッドに侵入し、フセイン後のイラクの体制に大きな影響力を持ちたい意向を明らかにしている
4. アメリカが望むのは親米的な、近隣諸国と融和できる穏健政権だが、それをうまく作れるかどうかは不明だ。イラクの新政権は周囲からはとりあえずアメリカの傀儡政権と見られることが確実で、安定するまでには時間がかかる
5. またこの間に、テロ事件の増加も予想される。イラクの査察団受け入れにもかかわらずイラク情勢は不安定な状態を続け、こうした情勢は今後少なくとも半年程度続こう。この間、原油相場、ドル相場、アメリカの株式市場など金融市場に対する影響は無視できないものになる

ここに例示するが、国連の対イラク決議は詳細、かつ徹底したものであり、イラクがフルに履行するにはかなり難しいものになっている。以下には3項と4項を例示する。

「3. Decides that, in order to begin to comply with its disarmament obligations, in addition to submitting the required biannual declarations, the government of Iraq shall provide to UNMOVIC, the IAEA, and the council, not later than 30 days from the date of this resolution, a currently accurate, full, and complete declaration of all aspects of its programs to develop chemical, biological, and nuclear weapons,

ballistic missiles, and other delivery systems such as unmanned aerial vehicles and dispersal systems designed for use on aircraft, including any holdings and precise locations of such weapons, components, sub-components, stocks of agents, and related material and equipment, the locations and work of its research, development and production facilities, as well as all other chemical, biological, and nuclear programs, including any which it claims are for purposes not related to weapon production or material;

4. Decides that false statements or omissions in the declarations submitted by Iraq pursuant to this resolution and failure by Iraq at any time to comply with, and cooperate fully in the implementation of, this resolution shall constitute a further material breach of Iraq's obligations and will be reported to the council for assessment in accordance with paragraph 11 and 12 below;」

イラクはこの上に記されたような項目に関して、12月8日までに査察団に報告を行う必要がある。そこからの査察開始である。ウソがあったら、重大な違反で直ちに攻撃に繋がる。

この決議だけではなく、査察団の委員長を務めるブリクス委員長は、例えば査察に必要な車の用意、場所や鍵の開放などで30分以上の遅れがあった場合には、査察に対する重大な妨害と見なすといった基準を示している。中東では普通に見られ、許容される遅れも、今回の査察では許さないといった厳しい態度だ。大統領府に対する査察を含めて、イラクがアメリカの満足する形での国連査察実行を完遂できる可能性は低い。

その一方でブッシュ政権は、イラクに対する攻撃を、口実を見つけても実施に移す決意を固めている可能性が極めて高い。もはや、フセインはブッシュ大統領にとって私的怨恨の的になっていると言っても過言ではない。1992年には父親が危うくクウェートで暗殺されそうになった。

イラクも言ってみれば「ブッシュ嫌い」となっている。この10年でイラク経済はがたがたになった。湾岸戦争当時のブッシュ（父親）が敷いた路線だ。現ブッシュ大統領が振り上げた拳をおろす場所を他に探すのは極めて難しい。同政権は、この攻撃開始を契機に、フセイン体制の打倒を目指すことになる。

### 《 America will win.....but 》

その場合のアメリカの勝利は間違いないだろう。地上軍の投入は最大20万～25万にも達すると予想され、一定期間の徹底した空爆のあとにこうした地上軍の投入が予想されている。その際には、アメリカ軍はクルド族など国内の反体制派勢力の力を借りる意向と言われる。

1991年以降のイラクの疲弊した経済や、牙をそがれたイラク軍の現状を考えれば、イラクが英米の軍事的圧力に長期間耐えることは難しい。アフガニスタンで示したアメリカ軍の攻撃力を考えれば、フセイン政権の打倒は比較的短期に進むと予想される。既にフセイン政権は自らの政権の崩壊に備えて、リビアのカダフィ大佐に35億ドル、4200億円を支払って、自分と長男のウダイ以外の枢要メンバー（夫人や側近など）をリビアに逃がすことを計画していると言われる（英タイムズ紙、本人と長男はどうせ捕まると言うことで除外）。

問題は、フセイン政権を打倒した後をどうするかである。アメリカの狙いは、穏健な親米政権の樹立である。クウェートやその他周辺の国に対して脅威とならない。しかし、この作業はフセイン政権を倒す以上に難しい。なぜなら、各勢力の思惑が交錯するからである。例えば、フセイン政権のもとで抑圧されてきたクルド族は、アメリカがイラクに侵攻した場合は、フセイン軍が退潮になったときと歩調を合わせて、首都バグダッドへの侵攻を開始する計画のようだ。

クルド族の軍事指導者の一人はニューヨーク・タイムズに対して「イラクの北部に軍事行動の範囲を限定する意向はない」と言明している。しかしアメリカとしては、アフガニスタンにおける「北部同盟」（全人口の一部を占めるに過ぎない）のような存在であるクルド族が、イラク全体を支配下に置くようなことは避けたい。ポスト・フセインが不安定化するし、報復合戦になるのも阻止したいからだ。しかし、すべてがシナリオ通りに行くかどうかは怪しい。

一つ明らかなことは、フセイン後でどのような政権が作られようと、「アメリカの傀儡政権」との見方は変わらないだろうと言うことだ。他のアラブ諸国はこの政権を受け入れるにしても、例えばイラク国民、イスラム過激派などがどのような対応をするかはかなり難しいだろう。とすれば、政権成立以降も各種の妨害工作、世界的なテロ活動は活発化する可能性が高い。イラクの地にアメリカ軍の長く留まれば留まるほど、例えばイラクで反米感情が吹き出すとか、サウジの態度が硬化するとか、副作用が予想される。

つまり、イラクでの軍事作戦以上に、アメリカはイラクでの次期政権作りで敏速、かつ目配りの効いた作戦が必要になると言うことである。アフガニスタンではアメリカはこれにかろうじて成功したように見える。しかし、アフガニスタンでの最大の作戦目標であるビンラーディン師とオマル師の捕捉には失敗しているし、こうした国際的なテロの発信源は残したままだ。

ビンラーディンについては、中東の衛生放送局「アルジャジーラ」から出されたテープがどうやら本人のものらしいということになっている。これはアメリカや日本での声紋鑑定でもそうになっている。イラクに目を集中することでアメリカはこの事実を過大評価しないように、騒がないようにしているが、ショックは大きいだろう。対イラクで例えばフセイ

ンを取り逃がすようなことになったら、アメリカの面子は潰れる。

### 《 will have a grave impact if prolonged 》

今のところ、アメリカの金融市場を見ても一時期「戦争突入」を理由にした株価の下げも収まって、戦争に対する免疫を作っているような状況に見える。ドルも比較的安定している。戦争が比較的短期に終わり、その後のイラクでの政権作りも順調にいけば、経済ばかりでなく自国に対する自信がアメリカで蘇るという意味で、株式市場、ドルに対しては好影響が生まれる可能性が高い。

問題はテロの発生の有無と対イラク戦争が長期化した場合である。FBI は対イラク攻撃が間近に迫ったこの時期に、国際的なテロ組織が「劇的な、目を剥くようなテロ」を行う危険性を指摘した。ビンラーディンの声明には、世界中のアルカイダを親密であるとする組織に対する暗号的、暗示的指令が込められているとの見方もある。過去における FBI のテロ警報がそれほど確度の高いものであったことはないにせよ、イラクとの戦争が接近する中でアメリカの治安当局が真剣にテロを懸念している証拠といえる。

それを裏書きするように、この週末のニューヨーク・タイムズには「報復的なテロの危険性から、アメリカは在米イラク人に対する監視を開始した」とのニュースがあった。第二次大戦時の日本人のように収容はしないものの、監視を行うと言うことはやや行き過ぎの感もする措置である。しかしそれだけアメリカが事態を真剣に懸念している証拠と受け取れる。

湾岸戦争の時もそうであったが、アメリカの戦争時におけるドルの価値保持力は弱い。長引けば長引くほど、ドルも株も落ちる可能性が高まると考えるのが自然である。なぜなら、それは自信喪失、アメリカ経済の体力喪失、財政事情の悪化、国内政治の不安定化などに繋がるからである。現在の戦争においては、戦争行為が需要項目として大きなものになる可能性は小さい。

予想されるアメリカの対イラク行動が市場に及ぼす影響を今から考えるならば、短期か長期か、フセイン後のイラク情勢がどのくらい敏速に、安定した形で形作られるかなど、いくつかの要因で決めることが出来ると言うことである。

今週の主な予定は次の通りです。

|           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 11月18日(月) | 9月景気動向指数改定値<br>日銀金融政策決定会合(19日まで) |
| 11月19日(火) | 米10月消費者物価<br>米9月貿易収支             |
| 11月20日(水) | 11月日銀金融経済月報<br>米10月住宅着工、許可件数     |
| 11月21日(木) | 9月産業活動指数                         |

速水日銀総裁会見

10年国債入札

米10月景気先行指数

米10月シカゴ連銀指数

米10月財政収支

米11月フィラデルフィア連銀指数

北米半導体製造装置受注

9月中間決算集中日

11月22日(金)

日本の経済政策はまたまた迷走しているように見える。これでは、株価が上昇のきっかけをつかむのは難しい。株価がバブル崩壊後の新安値をつけたら(先週木曜日)直ぐ出てきたのが補正の話で、規模は5兆円だという。まさに泥縄である。一方で「国有化」の恐れのある一部の銀行株は、その懸念を正直に反映するかのように不安定な動きで、市場の懸念の的となっている。

株の下落はそれだけで今の日本でのデフレ圧力増大に繋がる。また企業の決算は株安によって大きな打撃を受ける。いくら原理原則を示しても、具体的、かつ総合的に今の複雑系の典型とも言える日本経済の苦境打開の道を示し、株式市場が納得する形で経済政策をリーダーシップを持って示さなければ、危機が危機を招来するような形で進んでしまう。株価が下がっても誰も危機感を感じなくなったような今の日本は危うい。

基本は規制をなくし、企業の経済活動を活発化し、そして民間経済に活力と自信を与えることである。今の日本はまるで社会主義体制を作ろうとするかのようなシステム構築を行っている。これでは株式市場に活力が出てこないのは当然だ。「国有化」と「活発な株式市場」は、対極にある。株式市場は「活力ある企業」があつてこそ、値上がりする。

企業の再生にまで国が容喙するようなシステムでは、いつまで立っても株式市場は活性化しない。

### 《 have a nice week 》

こんな株価では「ナイス」とも言えない気分ですね。寒くもなってきたし。しかし、今の時期は一番風邪を引きやすい。皆様、体調にはお気をつけください。

寒いと言えば、この週末は長野県の上田に行っておりました。親戚の法事で。寒かった。特に陽が沈むとぐぐっと寒くなる。長野県では寒いことを「しみる」というのですが、それは寒さが体に「しみる」ようであることから来ているのではないのでしょうか。

その上田行きのからみで北国街道の宿場だった海野(うんの、この地方の豪族の名前)の宿に立ち寄ったのですが、綺麗な昔ながらの町並みが残っていました。木曾のそのように。実はそこで初めて、「うだつが上がらない」の「うだつ」の意味が分かりました。「うだ

つ」は「卯建」、または「卯立」と書くらしい。

何かというと、家と家の間にある出っ張りを指すのです。機能としては、隣家からの火事を防ぐ目的で作られたと言われているらしい。しかし、出っ張りの厚さはせいぜい10センチ程度、高さもそれほどではない。機能というより、美しさが目立つ。きりっと立っているのです。どうも、「こんな装飾を家に施す余裕もある」という形で、その家の豊かさを示すことが主目的だったようだ。

つまり、「“うだつ”が作られた家」というのは豊かな家という意味で、そこから「うだつが上がる」「上がらない」という言葉が生まれたらしい。

それにしても、法事というのは本当に久しぶりの縁者に会える。死んだ人が会わせてくれるんですな。

それでは、皆様には良い一週間をお過ごしください。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com)) が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》